

水稻新除草剤の実用化

農試県南分場・技術部

1. 背景とねらい

近年、一発型除草剤の普及面積が増加しているが、県内では初期剤との体系で使用される例も多く、低コスト化、環境保全の面からは一発除草剤のみ一回の処理で済ませることが望ましい。

今回普及に供する2剤は、一回の処理で1年生雑草はもちろん、オモダカ、シズイ、クログワイ等の多年生雑草にも卓効を示し、処理の適期幅が広く、水稻に対する安全性も高い薬剤である。

2. 技術の内容

ア. コントラクト粒剤

1) 名称等 種類名：エスプロカルブ・ピラゾスルフロンエチル粒剤

商品名：コントラクト粒剤

試験名：NC-311SC粒剤

有効成分・含有率：エスプロカルブ7.0%、ピラゾスルフロンエチル0.07%

毒性；人畜毒性：普通物、魚毒性：B類相当

2) 薬剤の特性

本剤は、ノビエやカヤツリグサ科雑草に効果の高いエスプロカルブと、多年生雑草にも卓効を示すピラゾスルフロンエチルを混合した薬剤である。広範囲の雑草に対し1回の処理で防除が可能で、水稻に対する安全性も高い。また一発除草剤としては比較的安価であり、低コストで効果的な除草が可能となる。

3) 使用方法

移植後7～12日（ノビエ2.0葉期まで）までに湛水のまま均一に散布し、3～4日は湛水状態（水深3～5cm程度）を保つ。

4) 使用基準

区分	処理法	使用基準	使用量	適用土壌・地帯	適用雑草
移植	移植後	移植後	kg/10a	砂壤土～埴土	一年生雑草、マツガイ、オムシ
水稻	土壌処理	7～12日 (ノビエ2.0葉期迄)	3	日減水深2cm以下 全県下	オモダカ、ミズカヤツリ、ウリカ オモダカ、ヒルムシロ、クログワイ、シズイ、セリ

イ. スパークスター粒剤

1) 名称等 種類名：エスプロカルブ・ジメタメトリン・ピラゾスルフロンエチル・プレチラクロール粒剤

商品名：スパークスター粒剤

試験名：NC-329粒剤

有効成分・含有率：エスプロカルブ7.0%、ジメタメトリン0.2%、プレチラクロール1.5%、ピラゾスルフロンエチル0.07%

毒性；人畜毒性：普通物、魚毒性：B類相当

2) 薬剤の特性

本剤は、ノビエやカヤツリグサ科雑草に効果の高いエスプロカルブと、多年生雑草にも卓効を示すピラゾスルフロンエチル、ノビエ、ホタルイに効果を示すプレチラクロール、藻類、表層剝離に優れた効果のあるジメタメトリンの4剤を混合した薬剤である。広範囲の雑草に対し1回の処理で防除が可能で、ノビエの2.5葉期まで枯殺可能である。残効期間は40日以上と長い。また藻類、表層剝離に対しても効果が高く、発生前で20日、発生始でも10日程度の抑制効果がある。

3) 使用方法

移植後7～15日（ノビエ2.5葉期まで）までに湛水のまま均一に散布し、3～4日は湛水状態（水深3～5cm程度）を保つ。

4) 使用基準

区分	処理法	使用基準	使用量	適用土壌・地帯	適用雑草
移植	移植後	移植後	kg/10a	壤土～埴土	一年生雑草、マツハイ、オカシ、ヘラオモダカ
水稲	土壌処理	7～15日 (ノビエ2.5葉期迄)	3	日減水深2cm以下 全県下	カ、ミスガツリ、ウリカワ、オモダカ、ヒルムシ クログワイ、シズイ、セリ、藻類、表層剝離

3. 指導上の留意事項

- 1) コントラクト粒剤はノビエ2.0葉期、ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・オモダカ・2葉期、セリ発生始期、クログワイ発生始、シズイ草丈3cmまでが散布の適期である。ノビエに対する残効期間がやや短いので、発生量の多い水田では発生前の処理を避け、ノビエの発生を確認してから処理する。ただしノビエの葉齢が2.0葉を越えないように注意すること。
- 2) スパークスター粒剤は、ノビエ2.5葉期、ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・オモダカ・2葉期、セリ発生始期、クログワイ発生始、シズイ草丈3cmまでが散布の適期である。ただしノビエの発生量の多い水田では2.0葉期までに処理する。
- 3) 両剤ともクログワイ、シズイに対しても効果があるが、発生の遅いものには効果が劣るので、必要に応じて後期剤との組合せをする。
- 4) 極端な浅植え、浮苗の多い水田、軟弱苗を移植した水田および砂質土壌や漏水田では、生育抑制等の薬害が強くなる可能性があるため使用しない。
- 5) なお、雑草防除基準から削除する剤は次の通りである。
 - ・ゲザガード粒剤（成分：プロメトリン6.0%、プレチラクロール1.5%）
 - ・ワイダー粒剤（成分：ジメタメトリン1.1%、ピペロホス4.4%、ベンタゾン10.0%）

4. 試験成績の概要

省略